



学力・学習状況調査結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、4月21日（火）に実施され、本校でも、3年生89名が参加しました。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学・理科）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、さらに、国語と数学については、A：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。

8月末に文部科学省から本校の結果が送られてきました。本校では、学園祭や新人戦などの行事への取組と並行して調査結果の分析を行ってきました。このたび、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

学校では、「各教科における改善点」を基に取組を進めていきます。調査に参加した3年生は、個人票で自分の結果を確認し、今後の学習に役立ててください。また、各ご家庭でも、後述する「ご家庭へのお願い」をお読みの上、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

本校の状況（全国との比較）

※ 文部科学省では、全国平均正答率の±5ポイントの範囲内にある場合は、全国平均と「ほぼ同等で、差はないものと判断できる」としています。

本校の平均正答率は、全国平均とほぼ同等*ですが、国語A、国語B、数学A、数学B、理科のすべてで全国と本県双方の平均を上回っています。特に、数学A（「知識」に関する問題）と理科は、他の問題と比べて全国平均との差が大きく、基礎的・基本的な内容の理解が図られていると思われます。

また、すべてについて無解答率が全国平均を下回っています。最後まであきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢は、すばらしいと思います。

一方で、「活用に関する問題の正答率が低い」「記述式の問題の正答率が低い」「数学と理科では、各自の正答率の散らばり具合が大きい」といった、全国と同様の課題があります。

[参考] 教科別の平均正答率（全国と本県の公立中学校）

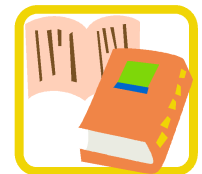
	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
全国平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
本県平均正答率	76.1	66.2	63.6	41.2	54.1

本校の主な成果と課題

国語

A 主として「知識」に関する問題

- 設問により差はみられるものの、全体を通して、県や全国平均と比べて正答率は上回っている。また、無解答率が極めて低い。これは、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていることと、問題を解決しようとする積極的な姿勢、学習への意欲の高さの表れといえる。
- 「話す・聞くこと」「読むこと」については、設問により差はみられるものの、全国平均と比べて、本校における正答率は高いものとなっている。特に、「登場人物の心情や行動、言動に注意して読み、内容を理解」しているかどうかをみる設問の正答率が高い。
- △ 全国的な傾向と同様に、「言語についての知識・理解・技能」に関する設問の「単語の類別について理解すること」については、本校においても他の設問に比べて正答率が低い。



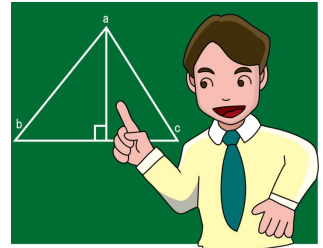
B 主として「活用」に関する問題

- 設問により差はみられるものの、全体を通して、県や全国平均と比べて正答率は上回っている。また、無解答率が記述式も含めて極めて低い。これは、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、問題を解決しようという積極的な学習への意欲の高さの表れといえる。
- 「読むこと」に関する設問の「表現の工夫について自分の考えをもつこと」については、本校では非常に高い正答率となっている。
- △ 全国的な傾向と同様に、「書くこと」に関する設問の「根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと」については、本校においても他の設問に比べて低い正答率となっている。

数学

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均と比べて、正答率は上回っている。また、昨年度の課題であった無解答率は改善され、低くなった。このことから、内容に関する理解と、何とかして問題を解決しようという意欲が高いことがうかがえる。
- 「数と式」「図形」「関数」については、設問により差は見られるものの、県や全国平均と比べて、本校における正答率は高いものとなっている。特に、「技能」に関する設問での正答率が高い。
- △ 県や全国平均と比べて、本校における正答率が低いものは、「資料の活用」についての設問や、具体的な事象における数量関係を扱った設問に多い。全国的にも正答率の低かった「2元1次方程式と1次関数との関係」に関する設問は、本校も低い正答率であった。



B 主として「活用」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均と比べて、正答率は上回っている。また、無解答率は、県や全国平均と比べても、極めて低い。このことから、課題を理解して、何とかして問題を解決しようという意欲が高いことがうかがえる。
- 「数と式」「図形」については、設問により差は見られるものの、県や全国平均と比べて、本校における正答率は高いものとなっている。特に「数と式」の「事象や問題の場면을数学的に解釈する」に関する設問での正答率が全国的にも高く、数学の見方や考え方が高まってきていることがうかがえる。
- △ 県や全国平均と比べて、本校における正答率が低いものは、「関数」「資料の活用」についての設問に多い。特に全国的にも正答率の低かった「関数」の「事象を解釈して数学的に説明する」という発展的な設問は、本校も低い正答率であった。

理科

- 「知識」に関する問題については、設問全体を通して、県や全国平均と比べて、正答率は上回っている。また、無解答率は、県や全国平均と比べても、極めて低い。このことから、基礎的・基本的な知識・技能を身につけていて、問題を解決しようという意欲が高いことがうかがえる。
- 「活用」に関する問題についても、設問全体を通して、県や全国平均と比べて、正答率は上回っている。また、無解答率が記述式も含めて低くなっている。これは、課題を解決しようという意欲の表れであると考えられる。
- △ 「オームの法則」を使って抵抗の値を求める設問は、県や全国平均と比べて、本校における正答率が低く、課題となる。これについては、概念が形成が十分にできていないと考えられる。
- △ 他に、県や全国平均と比べて、本校における正答率が低いものは「濃度の計算」「他者の考えを検討し改善する」「課題に正対した考察をする」ことについての設問に多い。



各教科における主な改善点

国語

- * 漢字の読み書きは、確実に身に付けたい基礎的・基本的な知識で、日ごろからの家庭学習習慣が大切である。授業の中でも、漢字のワークの活用や、漢字の確認テストなどを継続して行い、言語能力の育成を図っていく。
- * 「根拠を持つて的確に表現する力」を育成するため、授業の中で意図的に「根拠や立場を明確にして自分の考えを書いたり、発表したりする場面」を設定するとともに、その根拠や説明が適切な内容かどうかについて検討する学習活動を展開していく。
- * 言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、辞書などを使って語句や漢字などを積極的に調べる学習活動を行う。また、文脈に即した適切な言葉や、目的に沿った効果的な言葉について検討する学習を行っていく。

数学

- * 「資料の整理」の領域について課題が見られる。授業の中で、資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて判断の理由を説明できるような機会を設定するなどの学習補強に取り組む。
- * 「関数」の領域について課題が見られる。授業の中で、具体的な事象について、式と表、グラフの相互の関係を理解し、数学的な考えを用いて、成り立つ理由を説明できるような機会を設定するなどの学習補強に取り組む。
- * 「知識」に関する問題での正答率を高めるために、授業での反復練習や家庭での振り返りができる課題を充実させ、基礎・基本の定着を図っていく。
- * 授業の中に、身近で生徒の学習意欲を高められるような課題（事象を数学的に説明する課題）を適切に位置づけ、筋道を立てて数学的に説明する力の育成に取り組む。

理科

- * 理科で学習した知識・技能を日常生活の中で、さらに活用できるようにするため、単元終了後、課題解決学習ができる場面を増やしていく。
- * 観察・実験の結果から、課題の意味をよく理解し、自分の考察を振り返ったり、他者の考察を班の中で討議し改善したりする場面を増やしていく。
- * 「知識」に関する問題の正答率を上げるため、オームの法則を使って抵抗の値を求める計算や特に苦手としている割り算などについて、意味を考えさせながら反復していきたい。



質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家での勉強や生活の様子について調査したものです。本校生徒の生活習慣や家庭学習などの主な状況は以下のとおりです。

生活習慣について

- * 「朝食を毎日食べている」と回答した生徒の割合は、全国平均をやや下回っている。
- * 「起床・就寝の時間」が決まっている生徒の割合は、全国・県平均を上回っている。
- * 「テレビ等の時間」は、1日3時間以上が4割近くいて、全国・県平均を上回っている。
- * 「普段（月曜～金曜）1日あたりの携帯電話等での通話やメール、インターネットをする時間」については、1時間未満と回答した生徒の割合が4割超で最も多いが、2時間以上の生徒も3割近くいる。
- * 「普段（月曜～金曜）1日あたりのテレビゲームなどをする時間」については、1時間未満の生徒が4割強と最も多い反面、3時間以上の生徒も2割弱いる。

自分や友達、学級について

- * 「学校に行くのは楽しい」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- * 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- * 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っているが、友達の前で意見を発表することが得意ではないという傾向がある。
- * 「将来の夢を持っている」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- * 「自分には、よいところがある」と回答した生徒の割合は、ほぼ全国平均と同じである。

学習や読書について

- * 「平日の家庭学習の時間」は、1～2時間が4割弱で最も多い。2～3時間の生徒は2割強で、3時間以上は全国平均をやや下回っている。また、1時間以下の生徒が3割強いる。
- * 「休日の家庭学習の時間」は、2時間以上が5割近くいて、全国・県平均を上回っている。
- * 「読書が好き」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- * 「読書の時間」は、1日2時間以上の生徒が1割弱いる反面、全くしない生徒が3割以上いる。図書館にほとんど行かない生徒は5割以上いて県平均を上回っている。
- * 「授業の予習・復習」をしている生徒の割合は、全国・県平均を下回っている。あまりしていない生徒の割合は、予習で7割程度、復習で5割以上いる。



地域や社会への関心について

- * 「地域の行事への参加」については、全国平均とはほぼ同じであるが、県平均は大きく下回っており、参加している生徒が2割、どちらかといえば参加しているが3割弱である。
- * 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」生徒は、ほぼ全国平均である。
- * 「新聞を読む」については、ほとんど読まない生徒が7割いて、全国・県平均より多い。

質問紙調査からの改善点

- * テレビ、ゲーム、スマホ等に費やす時間が多く、家庭学習の時間が少ない実態があります。学校では「家庭学習の手引き」を作成して、9教科それぞれの、授業で大切な学習の仕方、毎日の予習・復習、テスト前の学習等を生徒に示しました。有効活用して学習に役立ててください。
- * 読書や新聞を読む時間が少ない傾向があります。学校では、図書館での授業や新聞を教材にした授業を工夫したり、読書や新聞を書くことや発表につながるような活動を工夫したりしたいと思います。
- * 地域とのつながりが少ない実態があります。学校では、地域の教材を開発したり、地域の方をゲストティーチャーにお迎えしたりして、地域との交流が図れるような工夫をしていきます。

* ご家庭へのお願い *

- * テレビ、ゲーム、スマホ、インターネット等は、利用についてお子さんと話し合い、ご家庭のきまりを作ってください。
- * 地域の活動（お祭り、子どもクラブの活動、ゴミの収集・分別、河川清掃、防災訓練等）に、お子さんと一緒にご参加する等、ご協力をお願いいたします。
- * ご家庭でテレビやスマホ、ネット等をしない日を設定して、学習や読書、新聞を読むこと等に家族全員が取り組む等、お子さんの家庭での生活を見直すことへの協力をお願いいたします。